

令和5年度第2回小牧市立図書館選書委員会会議録

1 **開催日時** 令和6年1月22日（月）午前10時～午前11時30分

2 **開催場所** 小牧市中央図書館 4階 多目的室

3 **出席委員** 委員長 長谷川 裕城
副委員長 丸山 真由美
委員 関戸 祥子
" 布施 江利子
" 奥村 理恵
" 白木 泰子

事務局 岩本館長
花里係長
林
兼岩

傍聴者 0名

4 **議題** (1) 選書について
(2) 雑誌の休廃刊及び新規購入について
(3) その他

5 **会議資料** 選書資料
雑誌の休廃刊リスト及び新規購入リスト

6 議事内容

議題 (1) 選書について

選書資料1 『徳川のまつりごと 中世百姓の信仰的到達』について

【長谷川委員長】

選書資料1 『徳川のまつりごと 中世百姓の信仰的到達』から行きたいと思います。
では、関戸委員からお願いいたします。

【関戸委員】

内容的には論文がずっと並んでおりますので、難しいのかなと思ったのですが、中に知多の大仙寺ですとか三州足助紙屋さんや定光寺と尾張藩の関係など色々出てきまして、私としては今年の徳川家康の大河ドラマではないですが、徳川家は今、キーワードかなと思います。そういったことを思うと、お値段もこのくらいであれば購入可で良いかと思いました。見られたい方が徳川ということでおられるのかなということと、中を見ると、中世百姓の信仰的到達ということで少し変わった観点から書いているのと、尾張徳川家のことが結構書かれているので、興味のある方はいるのではないかなと考えて可と判断しております。

【布施委員】

内容はかなり難しいかなと思いましたが、まつりごとを信仰的な視点からということと面白いと思ったことと、徳川家ということで皆さん読まれるのかなと思いました。じっくり読むと面白い感じがしたので私も可としました。

【奥村委員】

私もほぼ同意見です。やはり地元の事ですし、話題になっているというか、関心の高いことなので、読みたいと思われる方も多いと思います。可にします。

【白木委員】

私も3人とほとんど同じですが、やはりブームと言ってもいいくらい徳川という存在があるうえに、信仰というものが、百姓ですとか色々なものに対していかに及ぼすかという影響力みたいなものも感じられて、私自身はしみじみは読めないかもしれませんが、興味のある方にとってはとてもいい内容だと思うので、可です。

【丸山副委員長】

私も可にしました。今まであまり読んだことのないような角度の本だったので、なるほど、と思ったのがまず一つ。それから、徳川はやはり目を引きやすいというか、興味を引きやすいということと、8 ページだったと思うのですが、少しドキッとすることが書いてあって。常に役に立つことばかりを追求する人は、現代の精神性の確立から目を背けているといったようなことが書いてありまして、私の意識ですが、歴史とか古典への関心が無いということは、あまり良くないといった内容が書いてありまして、いや

あ、そうよね、と思ひまして。今日読ませていただいた本全般がそうだったのですけれど、このようなことを言われてしまうと、可にせざるを得ないかなと。本のはじめにそういうことが書いてあって、これを最初にもってこられちゃうとなあとと思ひまして可にさせていただきました。

【長谷川委員長】

私も可かなと思ひまして、内容は難しいですけれど、先ほどから出ていた地元愛知のことも載っていますし。百姓の信仰というのは、自分は普通の庶民なのでこういったことが昔からあったんだなあということを感じられたので良かったですし、研究したい方にとっては参考文献が沢山載っていたので、そういった方が手に取るにはいい資料かなと思ひましたので可にしました。

では、皆さん発言が終わりまして、全員が可ということでしたので、購入の方向でお願いできたらと思ひます。

選書資料2 『中世和歌の情景 新古今集と新葉集』について

【長谷川委員長】

では続いて2冊目『中世和歌の情景 新古今集と新葉集』に行きたいと思ひます。

【布施委員】

新葉和歌集というとマニアックで、資料中の参考図書にあるような新古今和歌集のみだったらかなり需要があるのかなと思ひます。マニアックだと思ひながら、自分の教科担当は国語なのでかなり読んでみたいなと思ひのですが、皆さんはどうなのかなあということを見ると可にはしましたが、皆さんのご意見も伺いたいなというところではあります。

【奥村委員】

私は不可にしました。ちょっとやはり専門的過ぎて、公共図書館ではなく大学だとか研究者の方のところに置いてあればいい本なのかなと思ひました。

【白木委員】

私は可にしました。知り合いにこの手のことにもものすごくこだわる方がいて、そういう方にとっては飛びつきたくなるような内容なのかなと。でもそういう方は本当に少な

いとは思いますが、もしこの本があったらそういう方が喜ぶかなと思いましたので、可といたしました。

【丸山副委員長】

私も可にしました。古今と新古今の組み合わせは結構あると思うのですが、この新葉集と組み合わせられているのは初めて見たような気がしまして。著者が若い方なので驚きました。もう少し年配の方が書いているのかなあとしまして。プロフィール欄に何故このようなことを始めたかということが書かれていまして、小学生の時に百人一首にはまり、それからこの道に進みましたと書いてあって、それを読んでから本の中身を見たら、すっと入ってくる言葉遣いで私は読んでみたいと思いました。今すぐピンとくるものではないかもしれませんが、今読んでおいたものがもしかすると10年後20年後くらいに、あ、あの時の、と思い浮かべられるんじゃないかなと思ったので可としました。

【長谷川委員長】

読んでいて、和歌の事だけではなくて、背景というか、ああいったところは読みやすく、ああ、そういう時代だったんだとか、こういう風に考えているんだなということが分かったので可にしています。専門的な本ではありますが、そういう本も市民の方が触れるところにあってもいいかなと感じています。

【関戸委員】

何年かの論文をずっとまとめてあるということで、確かにちょっととっつきにくいかなとは思いましたが、飛び飛びで読んだところで、新葉集はあまりピンとこないのですが、南北朝の南朝頃を背景とした、天皇中心に歌がまとめてあるんだなということ、歴史的なことと歌のことを絡めて書いてあるのは、自分としては好きな分野なので、これはちょっと面白いのではないかなと思いました。所蔵されている資料で新葉和歌集（久保田淳／監修：「和歌文学大系」）からの引用文がこの本にあたりするので、これが2014年で10年経っていますので、こういう本が1冊入ってもいいのかなということで可にいたしました。

【長谷川委員長】

では、可が過半数を超えておりますので、全会一致ではありませんが、購入の方向で進めていただけたらと思います。

選書資料3 『茶道バイリンガル事典』について

【長谷川委員長】

では続いて3冊目『茶道バイリンガル事典』に行きたいと思います。

【奥村委員】

とてもびっくりした本でして、すごく詳しいですし、内容的には分かりやすいのですが、利用者がいるのかなという気もしたのですけれども、資料に記載されている参考図書の貸出冊数なんかを見ると、茶道をやっていて英語で伝えたいという方もいらっしゃるのかな、そういう方たちには必要な本なのかなと思い、可にしました。

【白木委員】

今、奥村委員の話を伺って、揺らいでいます。判定を変更してもよろしいでしょうか。不可にしていたのですが、確かに奥村委員のおっしゃるとおりで、興味は引かれる本なんです。タイトルといい、装丁といい、茶道バイリンガルといったタイトルも、ものすごく目を引くので。確かに利用度とか、これをしみじみ読む方がどのくらいいるのかなと思ったのですが、存在感という意味ではとてもいいと思うので、これは可とさせていただきます。

【丸山副委員長】

私も可にしました。バイリンガル事典と書いてあるものの日本語で読んでも十分充実した内容ですし、やはり、お茶系に関する漢字は読めないものが多くて、よく目にはするものの何と読むのだろうと思う字を、この本で読み方を知ったりですとか、普段ローマ字ってなんて読みにくいんだろうと思うのですが、この本に関しては、(用語の漢字にローマ字の読みがなが振ってあるため)ローマ字は素晴らしいと思いました。あと「棗」など、自分の知っているところだけかいつまんで読んだのですが、非常に分かりやすく、簡単な日本語で書いてあったので、逆に日本人が読むと分かりやすいのかなと。英語もかなり簡単な英語で書いてあったので。中々手に取ってからでないとその良さが分からない感じがしますが、手に取るとこれはちょっと興味深いなと思ってもらえる本だと感じました。

【白木委員】

装丁が中々いいですね。お茶の色があって。

【長谷川委員長】

私は不可にしました。資料中の参考図書で貸出回数が多い資料を見ると、どちらかという日本人が外国人に教えるために、という本が借りられていて、そういう目的で作られていると思うんですが、あれだけ分厚い本を手にとって、相手に見せながら説明するのは難しいだろうなと思ったのと、あとは本当に伝えていく、もしくはこの位の値段を出すのであれば、映像資料だとかそういったものが付いたもののほうがすごく手軽な感じがしましたので不可にしました。

【関戸委員】

可も不可も決めかねていて、確かに少し知っている言葉を引いてみて、あ、これは日本語でこんな風に言うんだ、これは英語でこんな風に言うんだ、というのはへえと思ったのですが、どんな方が利用するのを想定して作られた本なのかなあと考えると、この本自体は素晴らしい本だと思ったのですが。児童書参考資料の『中学英語で話そう日本の文化英語』とか英会話集などでこういうのを使われる方はきっと、(茶道を) やっていらっしゃる方が、外国の方が習いにいらっしゃるって説明に困ったときにこういう本を見るのかな。これがあれば素晴らしいけれど…というので迷っています。本自体はあったら面白いなと思うので可にしておきます。すごく悩みましたが。

【布施委員】

日本の文化に興味を持ち始めた外国の方が、まず何に一番深く(興味を)持っていくのかなと思うとお茶なのかなと。私が読んでも全然知らないことが沢山載っていて、興味を持ち始めた外国の方が、そういうものを読んでいる自分に「日本の文化に親しんでいるわ、僕」という感覚の時に手に取るのかなあと考えると、面白いなと思いました。外国の方が、内容が全然分からないにしてもこういう事典があるということが面白いなと思いました。何となく読んでみて、こんなにいっぱい言葉があるのだというのが面白いなと思いましたので可にしました。

【長谷川委員長】

では、購入可が多数になりますので購入でお願いいたします。

選書資料4 『狩猟と権力 日本中世における野生の価値』について

【長谷川委員長】

続いて4冊目『狩猟と権力 日本中世における野生の価値』に行きたいと思います。

【白木委員】

私は、最初はいつもタイトルが気になるのですが、これはまず「狩猟と権力」というタイトルがおしゃれだなあと。一見相反するようなイメージがあるんですよね、私の中では。狩猟という原始的なものと。ただ、これはやはり野性的な中世から狩猟という根本的なものにあって、狩猟文化というものがあるということに興味を持ちました。ですから可にしました。

【丸山副委員長】

凄く迷ったのですが、『曾我物語』が出てきて、私は歌舞伎でしか知らない話だったのですが、私が知っている話と全然違ったんだという驚きと、あと『吾妻鏡』が少し出てきて、やはり大河の影響でこの話好きと思ひまして。いまでも浜離宮で皇族の方々が鷹狩りをされていて、ああなるほど、こういう事で今でも宮中行事として続いているんだというように自分の中でいろいろなことが納得いったということもあり、可にいたしました。ただちょっと迷う可でした。

【長谷川委員長】

どういったところが？

【丸山副委員長】

これは借りてくれるのかなあ…私もこれを図書館で見かけたとしても果たして手に取るのかなあと思ったので迷いました。

【関戸委員】

そうですね、手に取れば、なんですよ。

【白木委員】

タイトルは惹かれるんですよ、でも私は借りないかなあ。

【丸山副委員長】

私もちょっと…選書委員会の場合だから読みましたけど、図書館で見かけても果たして、と思ったのでちょっと迷いました。

【白木委員】

そうですね、これは歴史の分野に置かれるのですか。

【事務局】

はい。そうです。

【丸山副委員長】

タイトルが結構猛々しいといえますか。

【関戸委員】

ここ（本の背表紙のデザイン）が見えるので、手に取ってもらえれば需要はあるのかなと思います。

【白木委員】

「日本中世における野生の価値」という副題がいいですね。

【長谷川委員長】

私も可にしている、やはり狩猟と権力ということで関わりがすごく面白くて。自分は逆に手に取ってもいいかなという気がしました。多くはないかも知れませんが利用されるのではないかなと思いました。

【関戸委員】

皆さんとほとんど同じで、中を見ると、興味深いし、割とこの背表紙のところがパッと目につくので、お好きな方は手に取られるのかなあと。参考資料の、歴史と狩猟に関する資料は割とコンスタントに貸出がある本があり、ということはこの本にも需要があるのかなと思い、可にしました。

【布施委員】

私も可にしたのですが、面白いなあと思ひまして。中世の時代で狩猟で、それが権力が背景になっているという部分がすごく興味深くて。ただ、あのタイトルがあつて、自分が読むかと言われるとどうかなと思うのですが、見てみるとすごく面白いなあと思ひました。なので可にしました。

【奥村委員】

私も可にしました。歴史好きな方には違ふ視点で、と言いますか、考え方が広がると言いますか。興味のある方はいらっしゃると思ひます。

【長谷川委員長】

では全会一致で可ですので購入ということをお願いしします。

選書資料5 『中国古玉器総説』について

【長谷川委員長】

続いて5冊目『中国古玉器総説』についてお願いします。

【丸山副委員長】

これは本当に困ったのですが、まず、すごく良いところをなるべく探そうと思ひました。字が大きくて読みやすい、気象や天文の現象が古代の信仰の原点ではないかという仮説もすごく面白いですし、星座に絡めて色々なものが作られたりという点が面白いですね。私は「キングダム」が好きでよく読むのですが、始皇帝の前の時代にもこんなことをやっていたのかと思ひて、中国って本当に歴史が奥深いなあと思ひつつも、この本は1998年に第1版が出されて、この新装版は昨年出版されたそうなのですが価格も27,000円しますし、これが12,000円くらいであれば良いかなと思ひたので、不可としました。

【長谷川委員長】

私もすごく迷っていて、一応可にしています。中を見て、写真だとか絵だとか図がすごく分かりやすいように書いてくれてあるなというのは感じました。ただ、手に取ってくれる人がいるのかと。図書館というのは今、ネットワークが繋がっていて、県の図書館からでも小牧が所蔵していることが分かるので、小牧市民だけではなくて県内で興味

がある人がいれば借りられるのではないかなと思い、可にしました。小牧市が買うべきかどうかは別なのですが、一応可にしています。

【関戸委員】

私も迷いに迷ったのですが、「おわりに」の方や著者の業績を見ていたら、1999年に一度出版されて、この方は2006年にもう亡くなられているんですね。それがまた出版されたということは、残された業績をまとめた書物なのかなと思うと、もう一度見たら写真や図も多くて、こういった資料は貴重な資料として残されるためにまた刊行されたのであれば、これ以上業績は増えることはないので、同じように図書館に所蔵しておいていただくと良いのかなと思い、可にしました。

【布施委員】

迷いました。可にはしてあるのですが、玉器のことだけをこんなに突き詰めて書いてあって、写真や図や絵が多くて分かりやすいのですが、本当に需要があるのかなあと。大学の図書館などに置いてありそうな、中国歴史を突き詰めている人たちにはすごく興味のある本ではありそうですが。読んでいくと、こんなこともあるのね、というように面白いのですが、迷いまして。皆さんの意見を聞いていて、そんな大事な本なのかなと。小牧に置いておいて誰かが読んでいただけたらと思い、可にしました。

【奥村委員】

私は不可にしました。やはり、小牧の図書館には無くてもよいのかなと。

すみません、事務局にお尋ねしたいのですが、愛知県内の所蔵はどのようになっているのでしょうか。

【事務局】

こちらの本は旧版は県内で3館、新版では今のところ県内は0です。東京などには持っている館が2、3ありました。

【奥村委員】

そうですか。やはり小牧の利用者には利用されないのかなと思い、不可にしました。

【白木委員】

利用度も含めて専門的すぎるからこういった本が出版されるわけですが、利用度を考えると低いと思いますし、個人的な意見ですが心惹かれないと言いますか。他の本では分からないなりに心惹かれるものがあったのですが、その点でこれは他と比較して疑問を感じたので不可としました。

【長谷川委員長】

ありがとうございます。そうすると、ちょうど今、可と不可が半数ずつで意見が分かれていますので、この後自由に意見を言っていただいて、その中で意見を変えられる方がいれば、変えていただけたらと思います。

【白木委員】

どちらかにしないといけないのですね。

【長谷川委員長】

この会としては、どちらかの意見に決めないといけないということですので。

事務局に質問ですが、市外の他館から検索があって問い合わせが多々あるものなのでしょうか。

【事務局】

相互貸借と言いまして、自館で持っていない資料は他館で持っている館があれば貸し借りをするという相互サービスが（公立）全図書館でできるという仕組みになっております。自館で借りる場合と比べて貸出期間が短いなど、そういった制限はございます。

【長谷川委員長】

実際、他市町村からの問い合わせなどの実績は結構あるのでしょうか。

【事務局】

（他館からの貸借については）年間数百件単位ですね。相互貸借は多いです。

【長谷川委員長】

そうですね。ありがとうございます。小牧で買うべきかどうかという点が悩むところ

ですね。

【関戸委員】

お値段が本当に。そういうものなのでしょうけどね。

【白木委員】

有るか無いかという選択をするならば有るに越したことは無いのですけれどね。

【奥村委員】

全て所蔵していればいいのでしょうかけれども、やはりでも、図書館の蔵書の特色と言いますか、例えばこの本であれば、石の産地であるとか。小牧は航空や小牧山、そういったものを重点的に集めるべきであって、他の館にないから小牧で置こうというのは少し違うのかなと。

【事務局】

資料によっては貸し出せないものもあります。

【奥村委員】

これは種別としては「一般」ですので、貸出は可でしょうか。

【事務局】

こちらは貸出可にする予定です。

【長谷川委員長】

あまりにも専門的なものであると、小牧にあるべきかどうかというところで考えると、先ほど言われたように小牧の特色的なところを考える必要があるかと。

【関戸委員】

徳川だとかそんなことに関することですかね。

【丸山副委員】

先ほど、東京にいくつか所蔵があるとお伺いしましたが、どちらの図書館でしょうか。

【事務局】

新版ですと、東京では港区、国立国会図書館、新宿区の3つです。旧版ですと、全部で9館、現代美術館図書館、大学では明治大学、芸術系の大学、自治体では府中市などで所蔵があるようです。

【奥村委員】

それは東京に限った話で、全国ではもっと多いということですよ。

【事務局】

(総所蔵数は) 1県ずつ調べないと分かりませんが、そういうことになります。

【長谷川委員長】

今の話の中で、判定を変えられる方はいらっしゃいますでしょうか。

【関戸委員】

小牧にあるべきかと言われたら、どうしたものかと思いますが、他に行ったら見ることができるということであれば、それでも良いのかなという気もしましたので、可にしましたが不可に変更します。

【長谷川委員長】

私も、小牧の税金を使うことなので、可から不可に変えたいと思います。

よって不可が多数になりましたので、この資料につきましては不可とさせていただきます。

選書資料6 『名刀甲冑武具大鑑』について

【長谷川委員長】

最後6冊目『名刀甲冑武具大鑑』は、私から始めさせていただきたいと思います。

私は可にしました。写真がとても見やすく興味を引くものだなあと。あとは少し古いかもしれませんがゲームやアニメなどで人気のある分野でもあるというのと、解説も別編でとても詳しく書いてありましたので、金額は高いですが、可といたしました。

【関戸委員】

おっしゃったように、数年前から「刀剣」は子どもや若い人たちにすごくブームになっていて、「どんな刃文が好き？」と聞かれたりした記憶もあるので、こういうものはすごく今専門的なものまで子どもたちの間に浸透しているのかと思います。また、知り合いの方で鑑づくりを趣味にされている方がいて、手作りでやっている方がいたりなど、こういう資料があったら喜ばれるだろうなどは思ったものの、66,000円かと思ひまして。参考資料の中で素敵な日本刀の資料が2冊程ありまして、それを広げてみると図や写真があつて20回も貸出されているので、66,000円という価格を考えると不可にいたしました。

【布施委員】

高額な本なのですが、こういうものが学校の授業で見ることが出来たらと思います。自分も見ている、細かく色々なことが書いてあつてすごく面白かったですし、実際に博物館とかには見に行けないけれども、あんなに色々載っていて見ているとワクワクしてしまうので、お値段を出していただけるのであれば、買ってもらえたらよいなと思ひましたので可にしました。

【奥村委員】

私は不可にしました。最初写真のページを見たときに、それほど綺麗じゃないなと思ひてしまいました。今はもっと映像だとか、綺麗な画像や絵を見ることが出来るので、その割にNHK出版であればもう少し鮮明で綺麗なものが出来たのではないかなと思ひまして。それがまた良いと言われるのかも知れないですが、不可にしました。

【白木委員】

私は可です。美術館だとか博物館に行ったかのような気分になって、楽しいですよ、シンプルに。うちにも小さな男の子の孫がいますけれども、こういったものを自分で被ったりする姿がすごく嬉しそうなので、これはお値段のことは考えずに、あると楽しいのかなと思ひ可にしました。

【丸山副委員長】

私も可にしました。この（編者）小川盛弘さん、メトロポリタン美術館に日本人の方でこういった役職の方がいらつしたことが何だか漫画の世界だなと思ひながら見

ていました。恐らく写真の撮り方が外国人の撮った写真のような。陣羽織の緋色というのですか、赤色の出かたがちょっと日本人の撮り方じゃないなという雰囲気がしまして。美術館で色々写真を見たりすると、明らかに日本人じゃないなという撮り方の写真があるんですね。それに似た雰囲気を感じました。徳川美術館とかですと、すごくじっくりくるという感じがするんですけどね。

【奥村委員】

こちらの参考資料の方が見ていてじっくりきて見やすい感じがしました。

【関戸委員】

それもぱっと広げることができますしね。持って見るには良いですね。

【丸山副委員長】

そうですね。こちらは大きくて重いので恐るおそるといいますか。

【白木委員】

どうでしょう。66,000円ですし。

【丸山副委員長】

66,000円は高いかなと思いましたが、まあこの位はするかなと。

【長谷川委員長】

意見を変えられない方がいらっしゃらなければ購入可ということになりますが、皆さんよろしいでしょうか。では購入ということをお願いいたします。

(2) 雑誌の休廃刊及び新規購入について

【事務局】

今年度休廃刊となった雑誌、刊行頻度が落ちて一般誌扱いとなった雑誌が、合計12誌ございます。資料4「令和6年度新規購入雑誌候補一覧」は、予算、内容、蔵書バランス、利用者ニーズ等を勘案して新規購入する雑誌を図書館が選定した候補リストです。こちらについてご意見、他おすすめの雑誌がありましたらご発言をお願いします。

【奥村委員】

「刊行頻度が落ちてしまったので受入休止」というのはどういうことなのでしょう。

【事務局】

小牧市図書館では、週刊年 52 回発行、月刊年 12 回発行、隔月刊年 6 回発行までの雑誌を（資料区分）「雑誌」として受け入れております。出版社の刊行頻度が年 4 回となった季刊誌、または、刊行頻度が不定期となったものは、「雑誌」としては受け入れられないということになります。

【長谷川委員長】

休廃刊リストに「テレビ情報誌」とありますが、新規購入候補にはそのジャンルのものは入っていないのですが、図書館としてこういったものは個人で、などの方針があるなど、何か理由があれば教えていただきたいです。

【事務局】

今テレビ情報誌は大変少なくなってきておりまして、こちらに残っている貴重なものの一つだったのですけれども、週刊発行のものがほとんどでしたが（ニーズに）追いつかず廃刊が相次いでおりまして、年々少なくなってきています。「週刊ザテレビジョン」は休刊となり、「月刊ザテレビジョン」とブランド統合し、新たな「月刊ザテレビジョン」としてリニューアルとなったもので、既に購入を開始しているため、令和 6 年度雑誌新規購入リストには掲載していません。

【長谷川委員長】

分かりました。ありがとうございます。他に何か質問はありますか。

【関戸委員】

ここ（新規購入リスト）に出ているものは一般的に人気のあるものということでしょうか。

【布施委員】

楽天マガジンとかにだいたい載っているものなので、読まれているものかなと。でも、皆さんこういったもの（電子マガジン）で読んでしまうのかなと。

【丸山副委員長】

小牧に路面店の書店がなくなってしまったので、図書館の意義がますます大きくなってきますね。ちょっと雑誌を読みたいなと思っても、歯医者さんなどでも雑誌を置かなくなりましてし。

【布施委員】

美容院とかもタブレットですものね。

【丸山副委員長】

読みたいページが飛ばされていたりするんですよ。

【奥村委員】

入れ替え分だけ（の資料）では、その他の現在受け入れている雑誌の一覧がないと、ちょっと判断のしようがなくて。

【事務局】

（参考資料として利用者用「雑誌リスト」を提出）

【関戸委員】

比較的皆さんに人気がある雑誌であれば、私はいいかなと思います。

【布施委員】

月刊の雑誌がどんどん減っている中で残っているものは、まだ読まれているということですよ。月刊として出せているということは。

【丸山副委員長】

もしかしたら、付録目当てかもしれないですね、売れていても。付録がすごいですものね。

【長谷川委員長】

いかがでしょう。急にこれを、というのは出しづらくはあるとは思いますが、逆に、こういう分野のものがあれば、という意見があればまた探していただくこともできるか

と思うのですが。特にご意見がなければ、このままでということではいかがでしょうか。

【奥村委員】

これ(利用者用の雑誌リスト)は中央館のみのリストですか。

【事務局】

いいえ、中央館含め、市内すべての館(室)のリストです。

【関戸委員】

これは個人的な意見なので、残していただかなくていいのですが、年齢的に、このような若い方向けよりも、もう少し高齢者向けの週刊誌、月刊誌とかはないのでしょうか。

【丸山副委員長】

「ハルメク」とかでしょうか。

【関戸委員】

そうですね、ああいう雑誌を入れていただけると、私たちぐらいから上の年齢の人たちは嬉しいかなと。

【丸山副委員長】

確か「ハルメク」は買い方が特殊なのですよね。本屋さんで買えないですし。通販みたいな。

【関戸委員】

春日図書館かどこかで見たことがあります。置いてあるところもあるのだな、小牧にもあるといいなあと思いました。

【奥村委員】

(雑誌リストを見て)「ゆうゆう」は入っていますが、「ハルメク」は入っていないようですね。

【事務局】

「ハルメク」につきましては年間購読の雑誌でして、小牧市図書館では、年間購読の雑誌は今のところ受入れることができかねております。年間購読ができる図書館では置くことができているかと思います。また、寄贈や雑誌スポンサーなどの制度で図書館にくださるといって置くことが出来ている図書館もあると思います。

【関戸委員】

よく分かりました。

【奥村委員】

排除するような意見ではないですよ。とても素晴らしい意見だと思います。

【布施委員】

女性ライフスタイルのような雑誌が見たいですよ。

【関戸委員】

そういうものがあるといいですよ。

【丸山副委員長】

私、(この図書館に)通って雑誌読んでるんですよ。

【関戸委員】

そうなんです。ちょうどいいソファなどがあって、皆さん読んでいらっしゃって、ああいいなと思っはいるんです。なかなかゆっくり来られないですが。

【奥村委員】

「女性ファッション」「男性ファッション」とありますが、対象年齢は分かれますか。

【事務局】

男性ファッション誌「Safari(サファリ)」は35～40歳ぐらいがメインターゲットです。女性ファッション誌「mina(ミーナ)」が25歳ぐらい、「GISELe(ジゼル)」が20代～40代、「SPUR(シュプール)」は30代前後の幅広い年齢層を対象としています。

【白木委員】

(対象が) 若いですね。

【関戸委員】

若い方は雑誌を読むのでしょうかね。

【長谷川委員長】

図書館を利用する年齢層に合うと良いということですよ。

【関戸委員】

「ハルメク」を買っていただけるとご年配の方たちも喜ぶと思われると思います。

【丸山副委員長】

あるといいですよ。年間購読までは手が出せないけれど、あると読みたいなあと思います。

【奥村委員】

書店で見ることができない分、見たいですね。

【長谷川委員長】

一つの意見として、(受け取っていただければ。)はい。先ほどもあったように、図書館を利用する年齢層と合うといいのかもしれないですね。

【事務局】

皆様、ご意見ありがとうございました。この中から新規購入する雑誌を図書館で選定し、進めていきたいと思っております。雑誌については以上です。

(3) その他

【長谷川委員長】

続いて、その他、連絡事項・報告事項等はありませんか。連絡事項等ないので、事務局へお返しします。

【事務局】

長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。皆様の任期は2年ですので、来年度も引き続きよろしく願いいたします。

これをもちまして、令和5年度第2回小牧市立図書館選書委員会を終了いたします。本日はお忙しいところお越しいただきましてありがとうございました。